

Presented by

超水道×GameCast

”一週間企画”

'99_(仮)

・ジャンル

→ダークジュブナイル

→一週間企画

・スタッフ

→企画 ミタヒツヒト/佐々木ケイ

→シナリオ 佐々木ケイ

→イラストデザイン 山本すずめ

→劇伴楽曲 inary

→提供 ゲームキャスト（トシ）

・コンセプト

→今までやったことのないダークなストーリー

→本格的に平均年齢の低い物語

→「ダメ人間」サイドからの世界を描く

→”1999年”という”最近”でも”昔”でもない世界を描き直す。

→「やってきたことの総ざらい」

→「超水道が次の段階へ進むための作品」

・概要

「恐怖の大王」に怯える 1999 年の日本が舞台。
誰もが漠然とした不安を抱える中、とある都内の中学校では、
奇妙な「おまじない」の噂が流れていた。

「頭がよくなる」「運動ができるようになる」「病気にかからなくなる」
およそすべての中学生が求めるであろうそれらを全て叶える魔法。

しかし、そんな魔法に希望を見出さない者が、ここに一人。
青沼誠（あおぬまこと）。噂のはびこる中学校に通う生徒のひとり。
勉強ができない。運動ができない。喘息持ち。
自らを「人間以下」と位置づける彼は「諦める」ことを選んだ人間だった。

自分が手にすることのできる幸福は、あまりにも少ない。
それならばそれでいい。その数少ない幸せで満足するべきだ。

そんな彼の唯一の幸せ。
補習のときだけ会うことのできる、ひとりの女子生徒。
名前は、黒川夏澄（くろかわかすみ）。

独特な空気。誰とも仲がよくない。補習ということはきっと頭もよくない。
それでも、彼女はとても可愛いのだ。
青沼誠の幸福、そして欲望は、すべて彼女に向けられていた。

そして訪れた 7 の月。
青沼誠はクラスの女子に、声をかけられる。
「おまじないをかけてもらえるかもしれない」
「でも、不安だから、お前が実験台になれ」

拒否する権利はない。

しぶしぶながらも、夜の町に繰り出し、「おまじない」を持つ、
隣町の高校生たちと接触する。

そこで語られるのは「おまじない」の裏側。

「おまじない」はある種のウィルスで、高校生たちによればそれは、恐怖の大王の訪れる
7の月を乗り越える力なのだという。

形のない滅亡への恐怖を抱えながら、ウィルスを保持する高校生たちを崇拜し、「その
後の世界」の民になることを渴望する中学生たち。

そんな流れのさなかにあっても、青沼誠は冷静だった。

彼は諦めているから。自分は「人間以下」だから。

人間以上の存在になろうなんて、考えたこともない。

そして彼の元に現れる、憧れの同級生。黒川夏澄。

「あのウィルスは危険なものだ。だから、私が駆除する」

はびこる「ウィルス」を敵と見定め、感染者の「駆除」を叫ぶ。

ウィルスを好意的に捉えない、ただひとりの同級生。

考えたこともなかった、もうひとつの姿。

その背後には「ネットで知り合った」という怪しい男。

黒川夏澄を言葉巧みに操る彼を、青沼誠は

「恐怖の大王」と呼ぶことにする。

そう、青沼誠は知っている。

黒川夏澄は、世の中の平和に興味など持っていない。

ヒロインを演じることで、ただ目の前の孤独感から逃げているだけ。

彼女もまた、姿のない「7の月」に踊らされているだけ。

特別な人間などいるものか。

地の底から世界を眺める、「人間以下」が言うのだから間違いない。

それぞれの思惑を乗せて、1999年、7の月は進みゆく。

そして「恐怖の大王」もまた、人知れず彼らを蝕んでゆく――。

・ あらすじ

いつもより暑い夏の夜。
日が沈んでもなお、ひりつくような暑さ。
都内。最近できた高層マンション。
こぎれいなグラスに注がれた麦茶を飲む。
きたない部屋。ポプリの匂い。積み上げられた雑誌の山。
見出しはみんな「ノストラダムスの大予言」。

恐怖の大王の話。
大予言。
1999、7の月。
恐怖の大王が世界を滅ぼす。
言われ始めたのは僕らが中学校に上がるか上がらないかのころ。
ずっと先だとばかり思っていたそれは、
気がつけばいつの間にか鼻先まで迫っていた。
みんな「世紀末」という言葉が大好き。
元々、何もかも諦めている自分には関係のないことで、
使ったこともない。

雑誌から目を上げる。
黒川夏澄。満足気な瞳で自分のことを眺めている。
こちらをずっと見ていたのか。胸の中で何かがどろり、と動く。
黒川夏澄は美しい女の子だ。文句のつけどころがない。
でも、その中身はまるっきり狂っているとしか言えないもので。

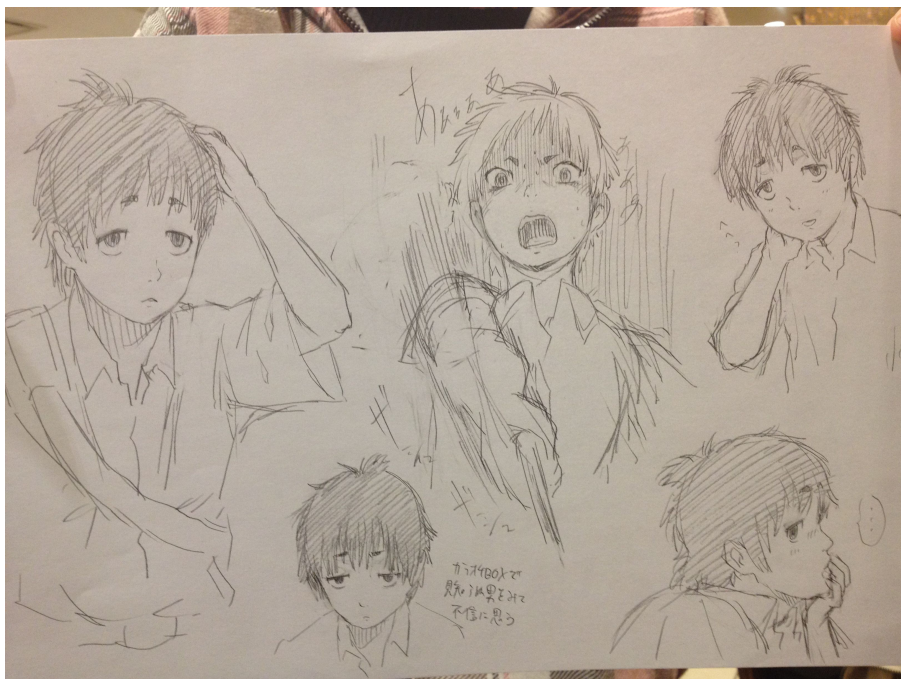
世紀末だ。
僕は初めて、その言葉を使う。

そんな夏の日々の話。

・キャラクター

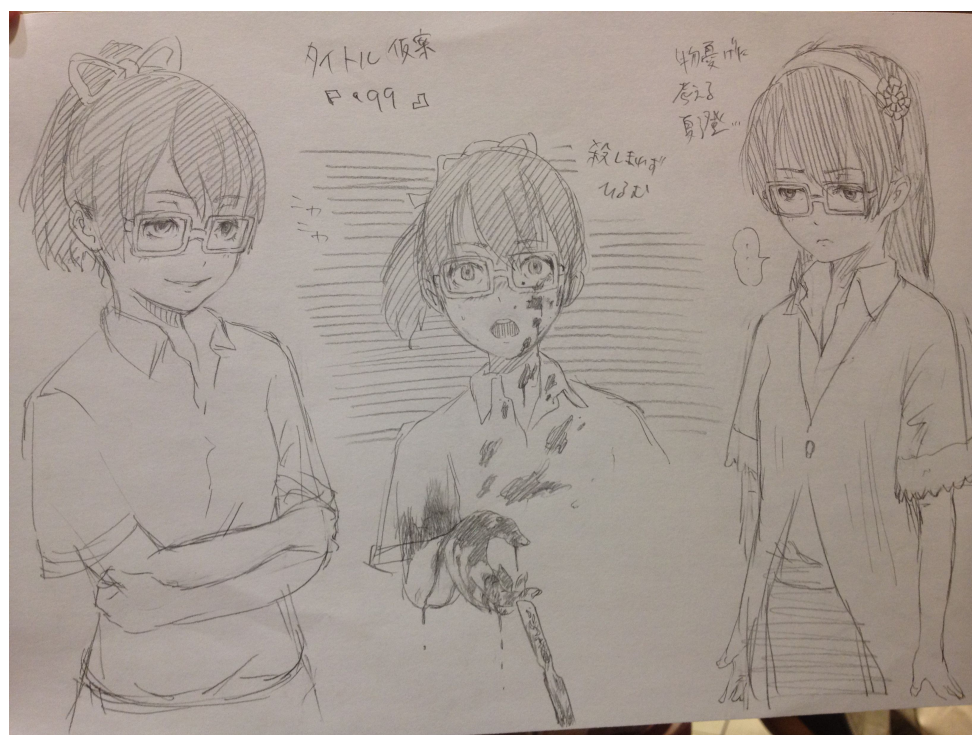
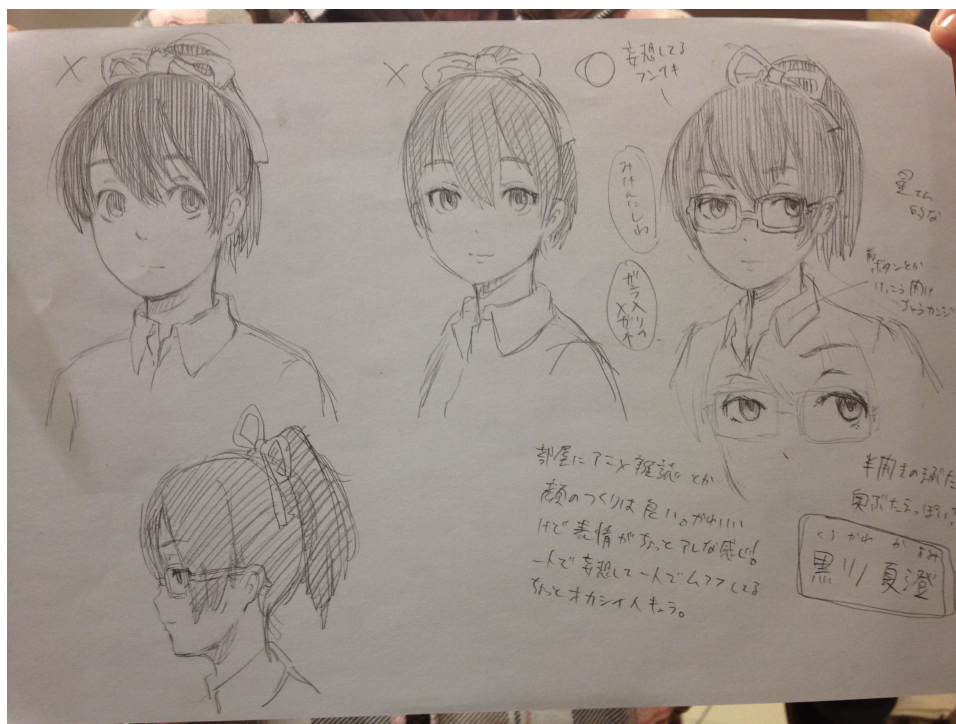
青沼誠

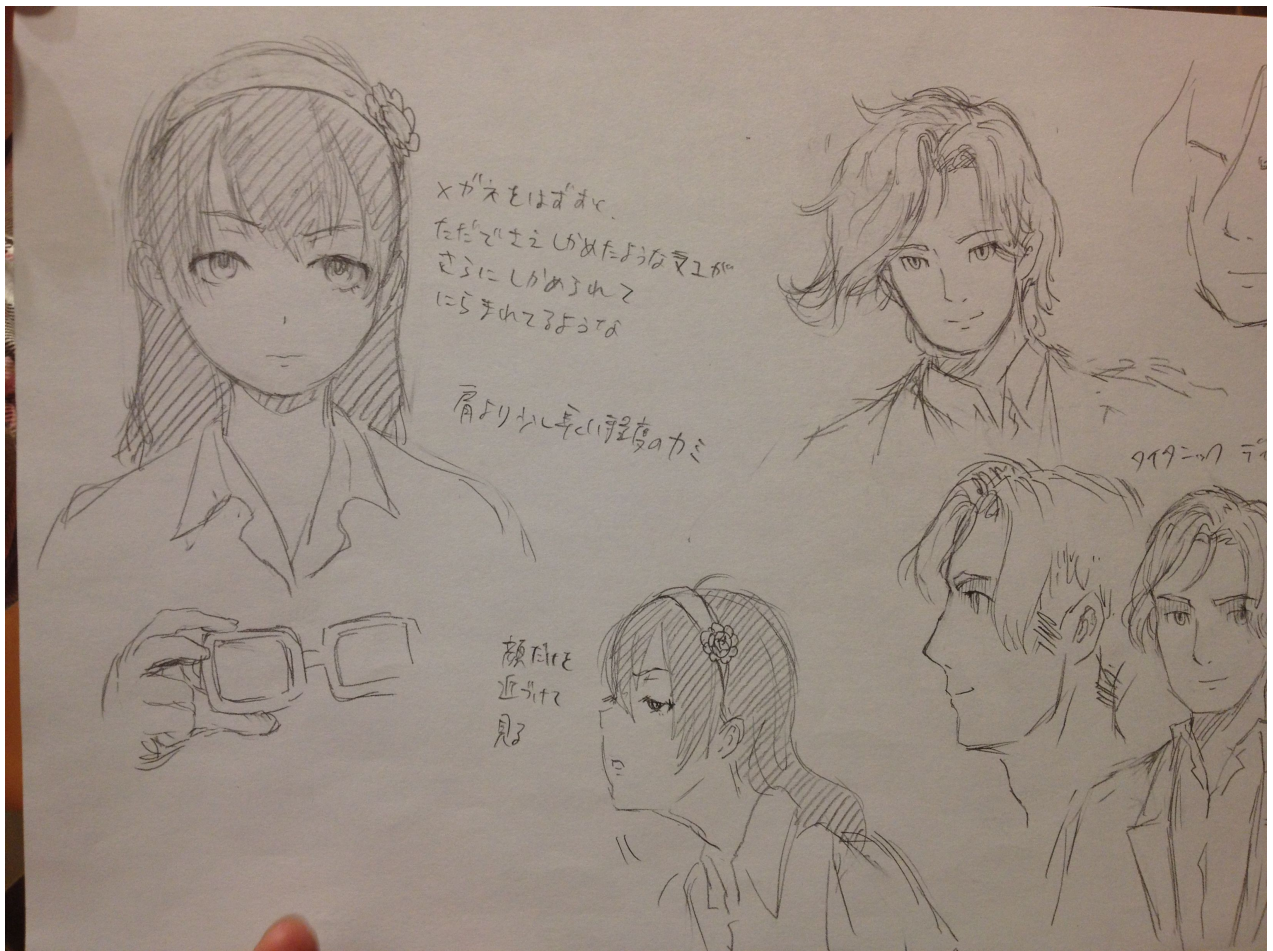
- ・ のび太から活気を奪い取った感じ
- ・ 自らを「人間以下」という
- ・ 手先は実は器用かもしれない
- ・ アニメもパソコンも詳しくない。元祖非リア充。



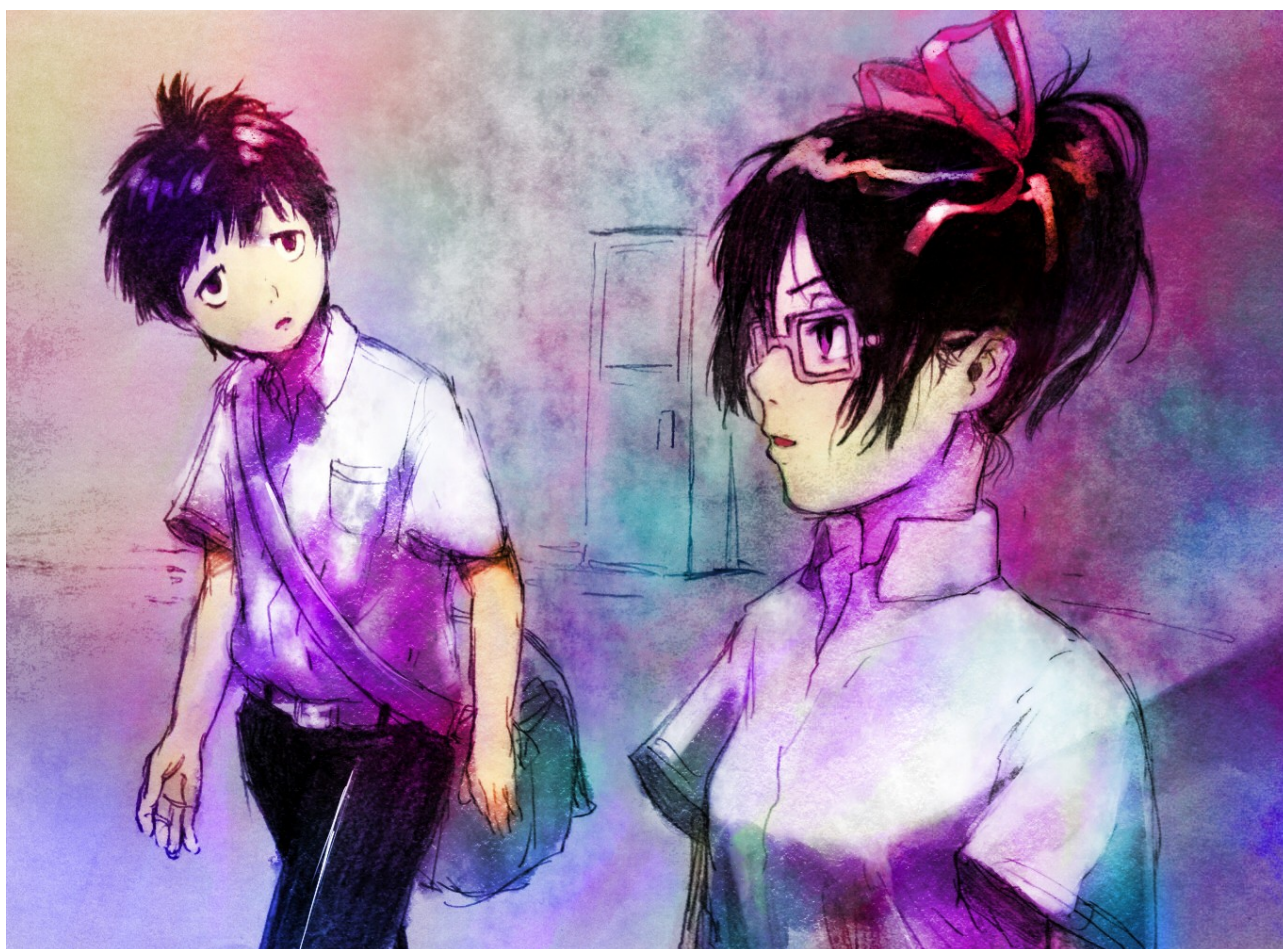
黒川夏澄

- ・当時まだそれほど勢力を誇っていなかったサブカル娘。
- ・「おたく」の女の子。中二病。当時そんな概念はなかったけれど。
- ・家に金があるばっかりに甘やかされて育った。
- ・パソコンが趣味。でも HTML は覚えられない。





・その他ビジュアル



できしだい送るんでもうちょっと待ってください…

・音楽発注

別添した参考資料も併せてご覧下さい。

1・メインテーマ

→仮題「感染者たちの神はコンクリートの柱を食む」

→タイトル画面やキメのシーンで使います。

→第一に「怖い」ようにお願いします。

→脅かす怖さではなくて、忍び寄るクトゥルフ系の怖さ

→断続的に音が「ドーン」とか「ゴーン」とか「ビターン」とかなっているとポイント高しです。

→ピアノ＆ヴァイオリンは外せない。インストが効いてるイメージ。

2・日常曲

→仮題「人間以下と女神のブランコ」

→日常曲です。学校のシーン等で使います。

→唯一のポジティブ寄りな曲という位置づけになるかと思います。

→どこか近所の家で延々とピアノの練習をしているのが聞こえるようなイメージです。

3・子供たちのテーマ

→仮題「魅惑のパジャマパーティー」

→不気味系曲、再びです。

→子供たちのグループをはじめとした不気味系シーンで使います。

→メロの音色はチープであればあるほどよいです。

当時の着メロくらいのイメージで。

ピコピコやれ、ということではありませんが。

→背景では、何か不安感を煽るもの。

メトロノームの音や人間のささやき声や

機械音や、いつかのノイズのようなものが延々と流れていると素敵です。

→イメージとしては、「着信アリ」の着メロのような不気味さの演出です。

4・ヒロインのテーマ

→仮題「澄んだ夏の黒い川」

→綺麗で切ないピアノ曲をお願いします。

→ただしどこか子供らしく、ノスタルジーを感じるイメージ

→展開的に盛り上がる必要は、あまりないです。

→inaryさんの「夜のロンド」がイメージ近いです

(<http://www.nicovideo.jp/watch/nm15185331>)

→こういう「切ない」感じがいいかなと思います。

→個人的に大好きです。

→「幼さ」と「きれい」と「切ない」のバランスはこんな感じが理想です。